

30年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は13社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
入荷動向	スギ	0.0	12.5	28.6
	ヒノキ	△ 30.0	△ 33.3	△ 40.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	7.1	12.5	14.3
	ヒノキ	△ 20.0	△ 16.7	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	14.3	16.7
	ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の入荷動向は11月の横ばいから12月、1月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは11月の減少から12月は横ばい、1月は増加に。トドマツは11月の減少から12月、1月は増加に。
・スギの消費動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは11月の減少から12月、1月は横ばいに。
・スギの在庫動向は11月の横ばいから12月、1月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは11月の減少から12月は横ばい、1月は増加に。トドマツは11月の減少から12月、1月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ	25.0	18.8	18.8
ヒノキ	25.0	25.0	25.0
カラマツ	50.0	50.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材用原木の価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツとも強保合。
・トドマツは横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツ丸太の入荷は改善しないまま、当地の合板工場は値上げに踏み切る。供給増加しないまま需要だけが増加するため悪化状況が続く。トドマツ丸太はシステム材入荷で幾分改善したが十分ではない(北海道)。
・入荷は10月まで順調、11月から少し鈍化。工場が限定されるTPP補助金関連の間伐がほぼ終了。全道的に慢性的にトドマツ丸太が不足している。カラマツも不足しており、伐採の手が追い付かないことも考えられる。また、国有林の仕分け変更によって苦勞している面もある。消費動向は原料在庫合わせて10月6,400m³、11月5,500m³を予定。在庫動向は、林道が凍結するまでの間入荷は鈍る(北海道)。
・3mスギ柱材用丸太の入荷は全体的に減少傾向にある。消費は前月同様横ばい(東北)。
・伐出好期となりスギ丸太の入荷は増加する。ヒノキは単価上昇のため仕入少なくなる(関東)。
・雪が降るまでは順調に出材されるイメージ。製材量はほぼ変わらない。仕入を進めているため在庫はやや増加(近畿)。
・丸太入荷少なめ、特にヒノキ丸太の入荷が少ない。消費は12月までは建築シーズンのため生産を増やしたいが原木入荷が不調。入荷減から在庫減へ(中国)。
・入荷動向は、11月は記念市が多く天候も良好で市場への材の出荷は多い。順調に消費し、残業は1時間。11月に付き入荷と消費のバランスが良く、在庫は横ばい推移(九州)。

(原木価格)

- ・カラマツ丸太は不足により立木価格は上昇5,000→6,500円/m³へ（北海道）
- ・トドマツ丸太は高値安定（北海道）
- ・引合いが強く、特に3mスギ柱用丸太は価格が上昇している（東北）。
- ・スギは出材増で価格は安くなる（関東）。
- ・スギ、ヒノキとも無いもの高が続いている（近畿）
- ・丸太不足により単価上昇（近畿）。
- ・ヒノキ丸太やや上昇。合板工場の進出により大変な時代が飛来とってる（九州）。

30年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
生産動向	スギ	6.3	18.8	12.5
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	12.5	12.5	6.3
	ヒノキ	△ 8.3	△ 8.3	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 6.3	△ 6.3
	ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは11月の減少から12月、1月は横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは11月の減少から12月、1月は横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品の在庫動向は3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは11月の減少から12月、1月は横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	△ 8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	14.3	14.3	14.3
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	6.3	0.0	0.0
	ヌキ	8.3	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	10.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0
柱角 KD12×3		0.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		0.0	0.0	0.0
土台角 12×4		0.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は母屋角が強保合。通し柱はやや弱含み。その他の品目は保合。

・ヒノキは全ての品目で横ばい推移。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・ラミナの増産要望はあるも梱包パレットより安価なことから対応できない。その他は変化なし(北海道)。
- ・稼働率や降雪の問題もあるが、生産アイテムをある程度絞ることで生産増を目指す。出荷は年内調子がよく関東を中心に引合いが強い。前月同様アイテムごとの在庫量の差が大きく、量が少ない製品に関しては引き続き出荷調整(東北)。
- ・スギ製材品の生産動向は前年並み。ヒノキは生産減に伴い出荷減となる(関東)。
- ・スギFJの需要増加より生産、出荷とも増加。年末に備えていた在庫を徐々に消化(近畿)。
- ・スギ、ヒノキ製品とも原木入荷の減少に追従して生産減少。12月までは荷動きまざるまざる状況。在庫は生産量次第(中国)。
- ・スギヌキは、大型工場の側→チップ化により供給が減っている(九州)。
- ・生産・出荷とも順調で残業1時間(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツ梱包仕組み板、カラマツラミナとも横ばい推移。
- ・前月と比較するとスギ3m柱は落ち着いた。しかし間柱の生産を減らしているため、間柱全体を値上げして出荷調整。集成の引合いは強いが、値上げの見通しはなし（東北）。
- ・スギ製材品の価格は上昇せず（関東）。
- ・スギタルキ、間柱、ヌキとも価格は変えられない状態（近畿）。
- ・スギ、ヒノキ製材品とも丸太価格上昇も製品化価格に反映されず（中国）。

30年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は11月の増加から12月は減少、1月は横ばいに。NZラジアータは11月、12月の横ばいから1月は減少に。

・米マツ丸太の消費動向は11月の減少から12月横ばい、1月は再び減少に。NZラジアータは11月、12月の横ばいから1月は減少に。

・米マツ丸太の在庫動向は11月の増加から12月、1月は横ばいに。NZラジアータは11月、12月の横ばいから1月は減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太は弱保合。NZラジアータ丸太は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・ラジアータ丸太は年間を通じ10～11月が出荷量多い。その後は入荷、消費、在庫とも減少していく。

(原木価格動向)

・NZマツ丸太はフレートが上昇している。

30年11月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	100.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は3カ月連続減少。NZラジアータ製材品は11月、12月は横ばい、1月は減少に。

・米マツ製材品の出荷動向は3カ月連続減少。NZラジアータ製材品は11月、12月は横ばい、1月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は3カ月連続横ばい推移。NZラジアータ製材品は11月の横ばいから12月は増加、1月は再び横ばいに。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ製品の出荷価格は平角、正角、小割とも横ばい。

・NZ梱包材(割角、割板)、土木用材とも横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・NZマツ製材品は、年間を通じ10～11月に出荷量が多い。その後減少していく。

(製材品出荷価格動向)

- ・製材品は梱包材(割板、割角)、土木用材とも価格は現状のまま値上げ時期を探る。